令和８年度

青森県立高等学校入学者選抜学力検査の結果

学　校　教　育　課
総合学校教育センター

青森県教育委員会は，令和８年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査を３月５日(木)に実施し，6,535人が受検した。

学力検査の実施教科，検査時間は，国語と英語が50分，数学，社会，理科が45分であり，配点は，各教科とも100点満点で，国語には16点，英語には27点の放送による検査問題が含まれている。

各教科の受検者全体の得点は，下の得点一覧表に示す結果となった。平均点を前年度と比較すると，国語が13.0点，理科が2.5点，英語が1.6点上回り，社会が6.5点，数学が0.8点下回った。

なお，学力検査問題は，中学校学習指導要領に示された各教科の内容から，「令和８年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針」に基づいて出題されている。

以下，各教科ごとに，受検者の誤答傾向と問題別正答率について述べる。

得点一覧表

教科 / 得点区分	国語		社会		数学		理科		英語	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
100	6	0.1	4	0.1	9	0.1	20	0.3	25	0.4
90～99	585	9.0	206	3.2	144	2.2	248	3.8	722	11.1
80～89	1702	26.1	617	9.4	432	6.6	500	7.7	726	11.1
70～79	1727	26.4	781	12.0	660	10.1	692	10.6	668	10.2
60～69	1248	19.1	889	13.6	869	13.3	883	13.5	625	9.6
50～59	707	10.8	948	14.5	1008	15.4	993	15.2	676	10.4
40～49	310	4.7	932	14.3	1009	15.5	954	14.6	860	13.2
30～39	143	2.2	920	14.1	915	14.0	835	12.8	955	14.6
20～29	71	1.1	760	11.6	703	10.8	682	10.4	865	13.2
10～19	27	0.4	398	6.1	530	8.1	574	8.8	357	5.5
0～9	4	0.1	75	1.1	251	3.8	149	2.3	51	0.8
0（再掲）	1	0.0	2	0.0	27	0.4	2	0.0	0	0.0
全教科受検者数	6530	100.0	6530	100.0	6530	100.0	6530	100.0	6530	100.0
平均点	71.7	－	51.6	－	48.0	－	50.1	－	54.7	－
標準偏差	15.2	－	21.9	－	22.4	－	22.8	－	25.1	－
最高点	100	－	100	－	100	－	100	－	100	－
最低点	0	－	0	－	0	－	0	－	2	－
前年度平均点	58.7	－	58.1	－	48.8	－	47.6	－	53.1	－

＊得点一覧表の各教科の値(%)は，全教科受検者に占める得点区分ごとの受検者の割合を表したものである。小数第２位を四捨五入しているため，人数が０人でなくても0.0%になる場合や合計が100%にならない場合がある。

国　語

1の放送による検査は，町内会の夏祭りへの協力のための話し合いを資料を見ながら聞き，内容や展開を捉える力，聞き取った内容をもとに，条件に即して適切に表現する力をみる問題である。(1)は，「夏祭りのテーマ」について聞き取る問題であり，正答率は約９割であった。(2)は，「放送委員会がステージ企画の運営に協力できる理由」について聞き取る問題であり，正答率は約６割であった。(3)は，司会の会議の進め方として適切なものを選ぶ問題である。本文の内容とは異なる「２」を選んだ誤答が多く，正答率は約５割であった。(4)は，「司会が考える話し合いの良かった点」について聞き取る問題である。「新しい企画を考える」という内容が不足しているために減点されているものが多く，正答率は約２割であった。話の展開に注意して，要点を整理しながら聞き取る力を伸ばしていくことが重要である。

2は，漢字の問題である。(1)の読字の正答率は約８割であり，誤答として，ウ「えいたん」を「えいかん」などと読んだものが多かった。書字の正答率は約８割であり，誤答として，ク「住宅」を「住居」などと書いたものが多かった。文脈に合わせて正確に意味を判断し，適切な漢字を用いる力を養うとともに，語感を磨き語彙を豊かにすることが大切である。(2)は，漢字の行書の特徴についての理解をみる問題であり，正答率は９割を上回った。

3は，『竹取物語』と『老子』からの出題である。(1)アは，歴史的仮名遣いを読む力をみる問題であり，正答率は約９割であった。(1)イは，文章の展開に即して内容を捉え，「苦しきこともやみぬ」についての理由として適切なものを選ぶ問題である。本文の内容とは異なる「２」を選んだ誤答が多く，正答率は約５割であった。(1)ウは，文章の展開に即して内容を捉える問題であり，正答率は約８割であった。条件に即して適切に表現する力を育成することが一層求められる。(2)アは，漢文のきまりに従って返り点をつける問題であり，正答率は約９割であった。(2)イは，文章の展開に即して内容を捉え，適切なものを選ぶ問題であり，正答率は約７割であった。文章の構成や展開に着目して内容を捉える力をより高めることが重要である。

4は，奥村優子（おくむら　ゆうこ）の『赤ちゃんは世界をどう学んでいくのか　ヒトに備わる驚くべき能力』からの出題である。(1)は，品詞についての理解をみる問題であり，正答率は約９割であった。(2)は，文章の展開に即して内容を捉え，空欄に適する語句を抜き出す問題であり，正答率は約９割であった。(3)は，文章の展開に即して内容を捉えて，空欄に入る適切な内容をまとめる問題である。「評価している」という内容が不足しているために減点されているものが多く，正答率は約３割であった。(4)は，文章に表れているものの見方や考え方を捉える問題である。「情報収集の戦略」についてまとめる問題であり，正答率は約７割であった。(5)は，文章の展開に即して内容を捉え，文章の内容について述べたものとして適切なものを選ぶ問題であり，正答率は約７割であった。文章に表れているものの見方や考え方について，書き手の論理の展開に即して適切に読み取る力を伸ばしていくことが重要である。

5は，阿部暁子（あべ　あきこ）の『カラフル』からの出題である。(1)は，品詞についての理解をみる問題であり，正答率は約８割であった。(2)は，文章の展開に即して内容を捉え，「自分のこと」について適切なものを選ぶ問題であり，正答率は約７割であった。(3)は，文章の展開に即して内容を捉える問題であり，正答率は約９割であった。(4)は，文章の展開に即して内容を捉え，「自分が求めてやまないもの」につ

いてまとめる問題であり，正答率は約６割であった。(5)は，文章に表れているものの見方や考え方を捉え，「この言葉が私のおまもり」であることについてまとめる問題である。Ⅰは「スタイリストとして」という内容が不足しているために減点されているものが多く，正答率は約１割であり，Ⅱの正答率は約８割であった。(6)は，文章の展開に即して内容を捉える問題であり，正答率は約８割であった。文章の構成や展開，表現の仕方について考え，登場人物の言葉や行動に着目しながら文章を読むことが大切である。

6は，グラフから読み取った内容をもとに，意見文を書く問題である。グラフをもとに自分の意見を書き，それを踏まえて意見の理由を書く，という条件に即して論理的に文章を書く力が求められる。意見とその理由との整合性がとれていないために減点されているものが多かった。文章から読み取った内容について自分の意見をもち，その理由が分かりやすく伝わる文章になるように工夫して書くことが大切である。

国語では，基礎的・基本的な知識・技能を活用し，文章の構成や展開，表現の仕方に注意して内容を正確に捉える力や，条件に即して適切に表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率　国　語

問題番号			配点		問題の内容		正答率(%)
1	(1)		4	資料を見て放送を聞く	話の内容と資料との関連を考えて聞き取る。		94.7
	(2)		4		話の内容を的確に聞き取る。		55.8
	(3)		4		話の全体と部分との関係に注意して聞き取る。		52.1
	(4)		4		話の内容を的確に聞き取る。		18.5
2	(1)	ア	1	読字	常用漢字を読む。	権威	93.4
		イ	1			遭遇	98.3
		ウ	1			詠嘆	56.2
		エ	1			遡る	87.2
		オ	1			授けた	83.1
		カ	1	書字	学年別漢字配当表の漢字を書く。	温泉	88.1
		キ	1			翌朝	73.5
		ク	1			住宅	74.7
		ケ	1			過ぎる	86.1
		コ	1			導く	88.5
	(2)		2	書写	漢字の行書の特徴について理解する。		97.9
3	(1)	ア	2	古文を読む	歴史的仮名遣いについて理解する。		89.2
		イ	4		文章の展開に即して内容を捉える。		54.5
		ウ	4		文章の展開に即して内容を捉える。		83.5
	(2)	ア	2	漢文を読む	漢文のきまりに従って返り点をつける。		87.1
		イ	2		文章の展開に即して内容を捉える。		65.8

問題番号			配点		問題の内容	正答率(%)
4	(1)		4	説明的文章を読む	品詞について理解する。	92.0
	(2)	A	2		文章の展開に即して内容を捉える。	96.4
		B	2		文章の展開に即して内容を捉える。	93.4
	(3)		4		文章の展開に即して内容を捉えてまとめる。	25.7
	(4)	Ⅰ	4		文章に表れているものの見方や考え方を捉えてまとめる。	60.5
		Ⅱ	2		文章に表れているものの見方や考え方を捉える。	80.7
	(5)		4		文章の展開に即して内容を捉える。	71.6
5	(1)		4	文学的文章を読む	品詞について理解する。	76.4
	(2)		4		文章の展開に即して内容を捉える。	71.4
	(3)	A	2		文章の展開に即して内容を捉える。	92.0
		B	2		文章の展開に即して内容を捉える。	90.5
	(4)		4		文章の展開に即して内容を捉えてまとめる。	59.8
	(5)	Ⅰ	4		文章に表れているものの見方や考え方を捉えてまとめる。	11.2
		Ⅱ	2		文章に表れているものの見方や考え方を捉える。	81.1
	(6)		4		文章の展開に即して内容を捉える。	75.0
6			10	意見文を書く	グラフから読み取った内容をもとに，自分の意見を書く。	平均点 6.6

社　会

1は，世界の様々な諸地域に関する問題である。(2)は，領海と排他的経済水域の面積と人口密度を表した資料から，日本を表しているものを選ぶ問題であり，正答率は約３割であった。誤答は，「１」や「４」を選んだものが多かった。(3)は，世界各地における人々の生活と環境を表した資料が，熱帯における人々の生活の特色やフィヨルドを表したものであることを判断し，緯度に着目してそれらが分布する地域を選ぶ問題である。資料２の正答率は約４割であり，誤答は，「Ｄ」や「Ｆ」を選んだものが多かった。資料中にある情報を地理的な見方・考え方に基づいて読み取り，人々の生活と自然環境を関連付けながら，世界の諸地域の特色について大観し理解することが大切である。

2は，日本の地域区分と関東地方の地域的特色に関する問題である。(4)は，太平洋ベルトの臨海部に集まる工場の傾向について，与えられた条件に即して適切に表現する問題であり，正答率は約５割であった。誤答としては，与えられた資料をもとに，太平洋ベルトの臨海部に輸入した原料を加工する工場が集まりやすいという傾向を考察することができていないものが多かった。(5)は，関東地方に関する２つの階級区分図が表しているものを選択する問題であり，正答率は約４割であった。誤答としては，Ⅰに「Ａ」，「Ｃ」を選ぶものが多かった。人口に着目しながら階級区分図から情報を読み取り，それらを関東地方の特色に結びつけることができなかったと思われる。地図や統計資料などの諸資料から情報を正確に読み取る中で，自然環境や産業に関する地理的事象を有機的に関連付けながら，日本の諸地域の地域的特色を多面的・多角的に考察していくことが大切である。

3は，古代から近世までの日本と世界の結び付きに関する問題である。(2)は，白村江の戦いで日本が支援した国の位置を略地図から選び，その国名を答える問題であり，正答率は約４割であった。７世紀後半の東アジアの国際関係についての理解が十分ではなかったものと思われる。(6)は，1865年頃の日本の社会状況について，与えられた条件に即して適切に表現する問題であり，正答率は約２割であった。誤答としては，資料における，当時の生活に必要なものがえがかれている凧揚げが，物価上昇を風刺したものであるということを考察できていないものが多かった。我が国の歴史の大きな流れを世界の歴史と結び付けたり，諸資料を活用しながら各時代の特色を理解したりするような学習が大切である。

4は，江戸時代末期から昭和時代前半までの日本の政治に関する問題である。(1)は，明治政府が地方を直接治める中央集権国家を造り上げるために1871年に行った政策の名称を答える問題であり，正答率は約３割であった。誤答は，「版籍奉還」や「五箇条の御誓文」と答えたものが多く，廃藩置県の概念的な理解が十分ではなかったものと思われる。(2)イは，大日本帝国憲法の制定過程や内容について述べた文の正誤の組み合わせとして適切なものを選ぶ問題であり，正答率は４割であった。誤答は，「２」や「３」を選ぶものが多かった。(4)は，1946年に日本の人口が急増した理由について，与えられた条件に即して適切に表現する問題であり，正答率は約３割であった。誤答としては，「戦争が終わり，死者が少なくなったから」や「移民が日本に入ってきたから」など，第二次世界大戦後に日本が放棄した植民地や占領地からの復員・引きあげについての理解が十分ではなかったものと思われる。諸資料を活用しながら，近現代の日本で見られた歴史的事象を考察したり，世界の動きとの関連を踏まえて日本の社会の変化を捉えたりする学習が大切である。

5は，国政と地方自治の比較に関する問題である。(2)アは，本会議の前に法律案や予算を審査する会議

の名称を答える問題であり，正答率は約３割であった。誤答としては，「閣議」や「公聴会」が多くみられた。(3)イは，地方公共団体間の財政格差をおさえるために国から配分されている交付金の名称と，その交付金が青森県の歳入に占める割合を資料から選ぶ問題であり，正答率は約５割であった。誤答としては，青森県と東京都の歳入の内訳を比較し，どの数値が地方交付税交付金にあたるのかを判断できていないものが多かった。政治に関する内容については，身近で具体的な事例を取り上げながら，対立と合意，民主主義などの概念的な枠組みに着目したり関連付けたりして，政治に関する様々な事象を理解できるような学習が大切である。

6は，税金と財政に関する問題である。(4)アは，日本の社会保障制度の四つの柱についての理解をみる問題であり，正答率は約４割であった。誤答としては「生活保護」や「社会福祉」が多かった。(4)イは，与えられた条件をもとに社会保障給付と国民負担の関係についての思考・判断を問う問題であり，正答率は約５割であった。社会保障と財政の関係についての概念的な理解が十分ではなかったと思われる。経済に関する内容については，現実の経済に対する関心を高め，身近で具体的な事例と関連付けながら，経済に関する様々な事象を多面的・多角的に考察する学習が大切である。

7は，地理的分野，歴史的分野，公民的分野を横断した，基本的人権の歴史に関する問題である。(1)イは，フランス人権宣言が出された頃の江戸幕府の老中について答える問題であり，正答率は約３割であった。誤答としては，「田沼意次」，「水野忠邦」，「井伊直弼」が多かった。(3)イは，日本国憲法13条の考え方についての理解をみる問題であり，正答率は約４割であった。基本的人権の保障は「個人の尊重」という考え方に基づいていることの理解が十分ではなかったものと思われる。習得した知識を活用しながら分野間の関連付けを図り，理解をさらに深めるような学習が大切である。

社会では，基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに，問われている内容を正しく理解した上で，資料から必要な情報を読み取る力，知識や資料を関連付けて，思考・判断したことを適切に表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率　社　会

問題番号			配点		問題の内容	正答率(%)
1	(1)		2	世界の様々な地域	経度０度の経線の名称	88.3
	(2)		2		日本の領海と排他的経済水域の面積、人口密度	29.7
	(3)	資料２	2		熱帯の地域	39.1
		資料３	2		フィヨルドがみられる地域	71.4
	(4)		2		東南アジア諸国連合	59.7
	(5)	Ⅰ	2		マレーシアの輸出品の変化	46.4
		Ⅱ	3		マレーシアの工業化の背景	51.6
2	(1)		2	日本の様々な地域	フォッサマグナ	69.9
	(2)		3		日本海側の冬の気候に応じた秋田県の伝統的な食文化	69.6
	(3)		2		太平洋ベルト	89.2
	(4)		3		太平洋ベルトの臨海部に集まる工場の傾向	50.8
	(5)		3		関東地方の地域的特色	42.4
3	(1)		2	中世・近世の日本	聖徳太子	76.0
	(2)		3		７世紀半ばの朝鮮半島	35.9
	(3)		2		弘安の役の頃の鎌倉幕府と元	37.0
	(4)		3		新井白石と田沼意次の政策の共通点	42.4
	(5)		3		1792年から1858年までに起こった出来事	39.9
	(6)		3		開国後の社会状況	24.6
4	(1)		2	近代・現代の日本	中央集権国家を目指した明治政府が1871年に行った政策	26.9
	(2)	ア	3		板垣退助らが批判した人物と主張した内容	67.0
		イ	3		伊藤博文が憲法調査で訪れた国と大日本帝国憲法の内容	35.2
	(3)	資料２	2		国民生活への統制が強められた時期	42.2
		資料３	2		初の男子普通選挙実施の時期	39.7
	(4)		3		1946年に日本の人口が急増した理由	30.5

問題番号			配点		問題の内容	正答率(%)
5	(1)		2	国の政治と地方自治	三権のうち内閣が持つ権限	79.0
	(2)	ア	2		本会議の前に法律案や予算を審議する会議	34.8
		イ	3		衆議院での法律案の採決	48.0
	(3)	ア	2		地方公共団体が担当する仕事	59.6
		イ	3		青森県と東京都の歳入の内訳	46.4
	(4)		3		国政と地方自治の比較	74.0
6	(1)		2	税金と財政	納税者と担税者が異なる税金	63.7
	(2)		2		好景気が行きすぎた時に政府が行う財政政策	72.2
	(3)		3		所得税の累進課税の考え方	51.8
	(4)	ア	2		生活費や教育費などを支給する社会保障制度	44.4
		イ	3		社会保障給付と国民負担の関係	48.6
7	(1)	ア	2	基本的人権の歴史	アメリカ独立宣言とフランス人権宣言に共通する語	54.7
		イ	2		人権宣言が出された頃の日本の政治	25.8
	(2)	ア	3		オーストラリアに暮らす移民の出身州の割合	61.2
		イ	2		北海道の先住民族	94.5
	(3)	ア	2		基本的人権を侵害された人々が国に要求できる権利	69.4
		イ	3		基本的人権の基となる「個人の尊重」という考え方	37.6

数　学

1は，基礎的・基本的な知識や技能をみる問題である。(1)の正答率は約８割であり，数と式についての基本的な計算に対する知識や技能は定着していると思われる。(2)は八角形の内角の和が外角の和の何倍かを求める問題であり，正答率は約６割であった。(3)は数量の関係を等式で表し，b について解く問題であり，正答率は約３割であった。誤答としては「ℓ=2a+2b」が多く，目的に合うように形式的に処理することができなかったと思われる。(4)は二次方程式を解く問題であり，正答率は約６割であった。(5)は一次関数の変域を求める問題であり，正答率は約７割であった。(6)は弧の長さが等しい角の大きさを求める問題であり，正答率は約８割であった。(7)は少なくとも１人の男子を選ぶ確率を求める問題であり，正答率は約７割であった。(8)はデータの箱ひげ図を選ぶ問題であり，正答率は約６割であった。

2は，平面図形や文字を用いた式についての知識や技能を用いて思考・判断し，数学的に処理する力をみる問題である。(1)は，直角二等辺三角形の２つの頂点を作図する問題であり，正答率は約２割であった。誤答としては AB=AC である二等辺三角形の頂点の作図が多く，図形を決定する要素に着目して作図の方法を見いだすことができなかったと思われる。(2)アは，生徒の会話を読み取り，適切な数を答える問題であり，正答率は約８割であった。(2)イは，生徒の会話を読み取り，適切な式を答える問題であり，㋐が約４割，㋑が約１割であった。㋐の誤答としては「$x, 2x$」が，㋑の誤答としては「$x^2/2+1, x+1$」が多く，数量の関係を正しく判断できなかったと思われる。

3は，図形について，数学的に考察する過程で見通しを立てて思考・判断し，的確に表現する力をみる問題である。(1)アは，１ 組の三角形が相似であることを記述で証明する問題であり，正答率は約３割であった。同位角や錯角などの図形の性質についての理解が不十分であると思われる誤答が多かった。(1)イは，(1)アの証明で明らかになった１組の三角形が相似であることを利用するなどして線分の長さを求める問題であり，正答率は約３割であった。誤答としては「6/7」が多く，図形の性質を論理的に考察し，表現することができなかったと思われる。(2)アは，三角柱の体積を求める問題であり，正答率は約４割であった。誤答としては「1000」が多く，三角柱の体積公式を正しく理解できていなかったと思われる。(2)イ，ウは，切り分けた立体において，線分の長さを求める問題であり，正答率はイが約３割，ウは約１割であった。誤答は多岐にわたり，空間における直線や平面の位置関係について，図形の性質を論理的に考察し，判断することができなかったと思われる。図形がもつ性質を多面的に捉える力を育成することが一層求められる。

4は，関数や図形についての知識や技能を用いて思考・判断し，数学的に処理する力をみる問題である。(1)は，二次関数上の点の y 座標を求める問題で，正答率は約７割であった。(2)は，三角形を回転した円錐の体積を求める問題で，正答率は約５割であった。誤答は「8/3,8π」が多く，三角錐の体積公式を正しく理解できていなかったと思われる。(3)アは，点の座標を求める問題であり，正答率は約４割であった。誤答は多岐にわたり，無解答も多かった。台形を見いだし，面積を正しく計算処理できなかったと思われる。(3)イは，a の値を求める問題であり，正答率は１割であった。関数と図形の領域の内容を総合した問題に対し，与えられた条件を図形的に捉え，適切な見方・考え方ができていなかったと思われ，誤答は多岐にわたり，無解答も多かった。

5は，ガス料金とガス使用量の関係を一次関数とみなし，表，式，グラフを適切に用いて，ガス料金を導

いたり，プランを比較してガス使用量の範囲を求めたりする過程で，日常生活の中で数学的な見方・考え方を働かせ，数学を活用する力をみる問題である。(1)アは，関係式からガス料金を計算する問題であり，正答率は約７割であった。(1)イは，x と y の関係を表すグラフをかく問題であり，正答率は約２割であった。誤答としては「原点を通っているグラフ」が多く，ガス料金とガス使用量の関係式を適切に用いて表現することができなかったと思われる。(1)ウは，表とグラフを適切に選択し，あ単位料金とい基本料金を求める問題であり，正答率はそれぞれ約７割，約３割であった。いの誤答は「3000, 3500, 4000」が多く，表，式，グラフから数量関係を明らかにし，式で表すことができなかったと思われる。(2)ア，イは会話文から条件を読み取って二元一次方程式を作り，単位料金と基本料金を求める問題であり，正答率はどちらも約２割であった。条件から適切な方程式を作るまでの過程の理解が十分ではなかったと思われ，誤答は多岐にわたり，無解答も多かった。(3)は３つのガス料金プランを，表，グラフ，式を適切に用いて，プラン１が他の２つのプランよりも安くなるガス使用量の範囲を求める問題であり，正答率は１割を下回った。問われていることを数学的に解釈することができなかったと思われ，誤答は多岐にわたり，無解答も多かった。解決過程や結果から得られる複数の条件の中で，必要な情報を読み取って思考・判断し，表現することで，問題発見・解決の過程において数学的に考える力を伸ばしていくことが重要である。

数学では，基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに，数や式を形式的に処理するだけではなく，数量や関数，図形，データの活用などに関して基礎となる原理や法則についての理解を深め，筋道を立てて思考・判断・表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率　数　学

問題番号				配点	問題の内容		正答率(%)
1	(1)	ア		3	数と式	正負の数の計算	95.6
		イ		3		正負の数の計算	95.3
		ウ		3		分数を含む式の計算	81.2
		エ		3		多項式の計算	81.1
		オ		3		根号を含む式の計算	55.8
	(2)			4	図形	多角形の角	62.6
	(3)			4	数と式	文字式	26.7
	(4)			4	数と式	二次方程式	62.0
	(5)			4	関数	比例	72.6
	(6)			4	図形	角の大きさ	83.3
	(7)			4	データの活用	確率	69.8
	(8)			4	データの活用	箱ひげ図の特徴	61.7
2	(1)			3	図形	作図	22.1
	(2)	ア		2	数と式	式による説明	80.5
		イ	う	3			39.8
			え	3			12.0

問題番号				配点	問題の内容		正答率(%)
3	(1)	ア		4	図形	三角形の相似の証明	31.9
		イ		4		線分の長さ	30.0
	(2)	ア		3		立体の体積	35.8
		イ		3		線分の長さ	30.5
		ウ		3		立体の線分の長さ	14.3
4	(1)			2	関数図形	放物線上の点の座標	70.9
	(2)			3		回転体の体積	49.1
	(3)	ア		3		直線上の点の座標	35.3
		イ		4		放物線の比例定数aの値	7.9
5	(1)	ア		2	関数 数と式	一次関数の利用	68.0
		イ		3			16.5
		ウ	あ	2			72.5
			い	2			28.5
	(2)	ア		3			22.9
		イ		2			20.0
	(3)			3			1.4

理　科

1は，生物・地学分野の小問集合である。(1)アは，脊椎動物の子のうまれ方についての理解をみる問題，(1)イは，特定の特徴をもつ動物の組み合わせを選ぶ問題で，正答率はどちらも約９割であった。(2)アは，呼吸が行われるときにはたらく筋肉についての理解をみる問題で，正答率は約６割，(2)イは，肺のつくりと呼吸のしくみについての理解をみる問題で，正答率は約８割であった。(3)アは，地層が堆積した当時の環境を知る手がかりとなる化石についての理解をみる問題で，正答率は約８割，(3)イは，地点Ａの標高を求める問題で，正答率は約５割であった。(4)アは，積乱雲が発達しやすい地点についての理解をみる問題で，正答率は約４割であった。誤答としては「２」が多く，寒冷前線付近の空気の動きについて正しく理解できていなかったものと思われる。(4)イは，雲のでき方についての理解をみる問題で，正答率は約４割であった。誤答は多岐にわたり，空気のかたまりが上昇することで，上空の気圧の変化と空気のかたまりの体積の変化を関係づけることができなかったものと思われる。生物的・地学的現象についての基礎的な知識は概ね身に付いていると思われるが，これらをもとに理科の見方・考え方を養い，それを働かせて科学的に探究していくことが大切である。

2は，化学・物理分野の小問集合である。(1)アは，酸化銅の色を選ぶ問題で，正答率は約９割であった。(1)イは，酸化銅と水素の反応を化学反応式で表す問題で，正答率は約７割であった。(2)アは，塩についての理解をみる問題で，正答率は約６割であった。(2)イは，中和に必要な水酸化バリウム水溶液の体積を求める問題で，正答率は約２割であった。誤答としては「15.0 cm^3」が多く，表の関係を理解し，数値を的確に処理することができなかったと思われる。(3)アは，実像についての理解をみる問題で，正答率は約７割であった。(3)イは，物体から凸レンズまでの距離を大きくしたときに，はっきりとうつる像について，レンズから像までの距離と大きさを選ぶ問題で，正答率は約３割であった。誤答としては，「２」や「３」が多く，物体，凸レンズ，像の位置関係や特徴について正しく理解できていなかったものと思われる。(4)アは，小球のもつエネルギーや小球が木片にした仕事についての理解をみる問題で，正答率は約８割であった。(4)イは，木片の移動距離から小球をはなした高さを求める問題で，正答率は約２割であった。誤答は多岐にわたり，無解答も多かった。与えられた条件を正しく考察し，数値を的確に処理することができなかったと思われる。化学的・物理的現象についての基礎的な知識は概ね身に付いていると思われるが，科学的な見方や考え方を働かせ，結果を分析して解釈する力を養っていく必要がある。

3は，エンドウを用いた遺伝の実験に関する問題である。(1)は，メンデルについての理解をみる問題，(2)は，分離の法則についての理解をみる問題で，正答率はどちらも約６割であった。(3)アは，エンドウの個体と形質についての理解をみる問題で，正答率は約４割であった。誤答は多岐にわたり，遺伝に関する基礎的な知識が身に付いていなかったものと思われる。(3)イは，子の種子と同じ遺伝子の組み合わせをもつ種子の数を選ぶ問題で，正答率は約３割であった。誤答としては「２」や「３」が多く，遺伝の規則性を見いだすことができなかったものと思われる。(4)は，孫の種子をまいて育てた二つの個体をかけ合わせた結果から，かけ合わせた孫の種子がもつ遺伝子の組み合わせを選ぶ問題で，正答率は約６割であった。

4は，砂糖，塩化ナトリウム，硝酸カリウムの３種類の物質を用いた実験に関する問題である。(1)アは，ガスバーナーの使い方についての理解をみる問題で，正答率は約８割であった。(1)イは，実験１の結果か

ら砂糖に含まれる元素についての理解をみる問題で，正答率は約５割であった。(2)アは，塩化ナトリウム水溶液を冷やしても結晶ができないことについて表現する問題で，正答率は約７割であった。(2)イは，出てきた硝酸カリウムの質量を求める問題で，正答率は約２割であった。誤答としては，「31.6ｇ」や「32.3ｇ」が多く，グラフを読み取った上で，条件に合わせて数値を的確に処理することができなかったと思われる。(2)ウは，水溶液に溶かすことができる硝酸カリウムの質量を求める問題で，正答率は１割を下回った。誤答は「10ｇ」が多く，さまざまな条件を考察し，的確に数値を処理することができなかったと思われる。

5は，電熱線の発熱と時間の関係についての実験に関する問題で，(1)アは，熱が伝わる現象について選ぶ問題で，正答率は約５割であった。(1)イは，電熱線に流れる電流の大きさを求める問題で，正答率は約７割であった。(1)ウは，時間と水の温度上昇の関係をグラフで表現する問題で，正答率は約７割であった。(2)は，電熱線を直列につないだときの水の温度変化とその理由について選ぶ問題で，正答率は約３割であった。誤答としては，「１」が多く，直列回路の電流，電圧や電力の関係について正しく理解できていなかったものと思われる。(3)は，並列回路にしたときの水の上昇温度を求める問題で，正答率は約１割であった。誤答は多岐にわたり，無解答も多かった。与えられた条件を正しく考察し，数値を的確に処理することができなかったと思われる。

6は，月と金星に関する問題である。(1)アは，惑星などのまわりを公転している天体についての理解をみる問題で，正答率は約８割であった。(1)イは，１週間後の月の形と位置を選ぶ問題で，正答率は約４割であった。誤答としては，「２」が多く，月の日周運動や年周運動について正しく理解できていなかったと思われる。(2)アは，金星を観察したときの時間と方位を選ぶ問題で，正答率は約５割であった。(2)イは，金星が真夜中に観察できない理由を表現する問題で，正答率は約６割であった。(2)ウは，１か月後に観察された金星に関する問題で，正答率は約２割であった。誤答は多岐にわたり，与えられた条件を正しく考察し，数値を的確に処理することができなかったと思われる。

理科では，観察，実験の内容や結果を正確に読み取って考察する力や，グラフや表から得られた複数の情報を目的に応じて整理し活用する力に加え，科学的に思考・判断し，その過程を含め，適切に表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率　理　科

問題番号			配点	問題の内容		正答率(%)
1	(1)	ア	2	セキツイ動物の分類	卵生	96.3
		イ	3		表中の動物の名称の組み合わせ	92.0
	(2)	ア	2	ヒトの呼吸系	横隔膜	56.0
		イ	3		ヒトの肺のつくり	82.0
	(3)	ア	2	地層	示相化石	78.4
		イ	3		地点Aの標高	50.6
	(4)	ア	2	雲	最も積乱雲が発達しやすい地点	43.6
		イ	3		雲のでき方	43.9
2	(1)	ア	2	酸化と還元	酸化銅の色	85.4
		イ	3		酸化銅を水素で還元したときの化学反応式	74.4
	(2)	ア	2	酸とアルカリの反応	塩	58.4
		イ	3		中性にするための水酸化バリウム水溶液の体積	18.8
	(3)	ア	2	凸レンズと像	実像とその向き	71.4
		イ	3		凸レンズを動かしたときの像	29.3
	(4)	ア	2	仕事とエネルギー	小球のもつエネルギーや木片にした仕事	80.0
		イ	3		小球をはなした高さ	24.2
3	(1)		3	エンドウを用いた遺伝の実験	メンデル	57.2
	(2)		3		分離の法則	62.9
	(3)	ア	3		エンドウの個体と形質	41.6
		イ	3		子の種子と同じ遺伝子の組み合わせをもつ種子の数	25.9
	(4)		3		かけ合わせた孫の種子がもつ遺伝子の組み合わせ	56.2

問題番号			配点	問題の内容		正答率(%)
4	(1)	ア	2	身の回りの３種類の物質	ガスバーナーの使い方	76.9
		イ	3		有機物にふくまれる元素	46.9
	(2)	ア	3		塩化ナトリウムの結晶が出てこない理由	68.9
		イ	3		出てきた硝酸カリウムの質量	17.1
		ウ	4		溶かすことができる硝酸カリウムの質量	9.8
5	(1)	ア	2	電熱線の発熱と時間の関係	対流	53.7
		イ	3		電熱線に流れる電流の大きさ	69.0
		ウ	3		時間と水の上昇温度のグラフ	69.7
	(2)		3		直列における温度変化とその理由	34.3
	(3)		4		並列における５分後の水の上昇温度	13.8
6	(1)	ア	3	月と金星の見え方	衛星	79.5
		イ	3		１週間後の月の形と位置	35.5
	(2)	ア	3		金星を観察したときの時間と方位	49.9
		イ	3		真夜中に金星を見ることができない理由	58.8
		ウ	3		１か月後に観察された金星	15.9

英　語

1は，放送による問題である。(1)は，英語による説明と質問を聞いて適切な絵や表現を選ぶ問題で，正答率は，ア，イがそれぞれ９割を上回り，ウが約４割であった。ウは，誤答として「１」を選んだものが最も多く，場面や状況は把握できていたようであるが，問われていることを正確に聞き取ることが難しかったと思われる。(2)は，授業での外国語指導助手の話を聞いて，その内容についての質問に対する適切な答えを選ぶ問題で，正答率は，アが約９割，イが約７割，ウが約４割であった。ウは，聞き取った英文の内容理解が不足していたと思われる誤答が多かった。(3)は，対話を聞いて，その内容についての質問に対する適切な応答を選ぶ問題で，正答率は，アが約７割，イが約６割であった。(4)は，外国語指導助手の話を聞いて，質問に対する自分の考えを適切に英文で表現する問題である。誤答としては，動詞や目的語などの必要な語が不足しているものや，適切な語順で英文を構成できていないものが多く見られた。問いの内容を正しく理解した上で，自分の考えを適切に英語で書く力を高めていく必要があると思われる。

2は，中学生とその父親による，「新しく開店した本屋」についての対話を題材とした問題である。(1)は，英文の意味が通るように，与えられた語句を並べかえる問題であり，正答率は，アが約７割，イが約２割，ウが約５割であった。イは，「疑問詞及び助動詞を含む疑問文」および「to 不定詞」の用法を問う問題である。疑問詞の what を文頭に置くことはおおむね定着しているようであるが，疑問詞に続く語順を「主語＋助動詞＋動詞」としていたり，助動詞 should の品詞の理解が不足しており「What do I should ～」としていたりする誤答が多かった。また，「what to 動詞の原形」を含む英文を構成する誤りも複数見られた。(2)は，対話の流れから，空欄に入る適切な語を選ぶ問題で，正答率は約５割であった。誤答のうち「think」を選んだものが多いことから，前後の対話の流れは正しく読み取れているものの，選択肢の動詞の用法に関する理解が不足していたと思われる。(3)は，日本語で書かれたメールの内容の一部を英文で書く問題である。下線部１では，比較表現のうち「the ＋最上級」の形が定着していないと思われる誤答が多く見られた。下線部２では，動詞の時制の誤りや，前置詞「about」が正しく用いられていないことによる減点が多かった。基本的な文法事項を適切に組み合わせて表現する力を育んでいくことが重要である。

3は，高校生と留学生による，「来日後の生活」についての対話を題材とした問題である。(1)は，本文中の空欄に入る最も適切な英文を選び，対話を成立させる問題である。正答率はＡが約５割，Ｂ，Ｃがそれぞれ約７割であった。(2)は，対話の内容を理解し，必要な情報や概要を選ぶ問題で，正答率は約４割であった。対話の一部だけに注目するのではなく，全体の流れや要点を意識しながら読み進めることが重要である。

4は，中学生による，「人工知能」についての発表を題材とした問題である。(1)は，発表の内容に合うように，要約文の空欄に適切な英語を書く問題で，正答率は，アが約９割，イ，ウがそれぞれ約８割であった。(2)は，発表の内容についての質問に英語で答える問題である。正答率は，１が約２割，２が約４割，３が約５割であった。１は，解答の一部が不足していることや，適切な代名詞を使用していないことによる減点が多く見られた。２は，解答箇所以外を抜き出している誤答が多かった。(3)は，本文に関連した質問に対する自分の考えを，まとまりのある英文で書く問題である。to 不定詞や動名詞などの文法事項の誤りや，内容の重複による減点が多く見られた。また，「I want to use　AI. Because ～」のように，接続詞を含む文を正しく表記していないことによる減点も多く見られた。自分の考えや気持ちなどを整理し，場面や目

的に応じて，まとまりのある文章を適切に表現する力を育成していくことが求められる。

5は，中学生が，農業体験を通して生産に携わる人々へ感謝するようになり，「自ら体験することの価値」に気付く，という内容の発表を題材とした問題である。(1)は，本文の内容と合うように，与えられた語句に続く適切な表現を選び，英文を完成させる問題である。正答率は，ア，イ，ウがそれぞれ約６割，エが約４割であった。文章の一部や表現を表面的に追うのではなく，内容全体の流れや要点を丁寧に捉えながら趣旨を踏まえて，総合的に概要を把握することが重要である。(2)は，下線部の内容を日本語で説明する問題である。「this　idea」が指す箇所を見抜けてはいるが，文構造の理解不足による減点に加え，主節である「I believe」を含めて解答したことによる減点も多く見られた。接続詞 that や「主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語」の文構造を正確に捉えることが困難だったと思われる。(3)は，本文の内容と合うように，英文の空欄に入る適切な語を選び，要約文を完成させる問題である。正答率は，アが約３割，イが約４割，ウが約５割であった。いずれも，選択肢の単語の品詞を正しく理解できていないことによる誤答が多く見られた。文脈に基づいて判断することに加え，選択肢の語が要約文において，どのような形で用いられるのかを考えながら解答することも重要である。

英語では，基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに，英文の概要や要点を正確に理解する力や，自分の考えや気持ちなどを整理し，状況に応じて，まとまりのある文章で適切に表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率　英　語

問題番号			配点		問題の内容	正答率(%)
1	(1)	ア	3	リスニング	英語による説明と質問を聞いて，適切なものを選ぶ。	95.5
		イ	3			91.5
		ウ	3			43.3
	(2)	ア	3		授業での先生の話を聞いて，その内容についての質問に対する適切な答えを選ぶ。	90.4
		イ	3			69.0
		ウ	3			39.9
	(3)	ア	3		対話を聞いて，その内容についての質問に対する適切な応答を選ぶ。	70.6
		イ	3			63.5
	(4)		3		英文と質問を聞いて，それに対する自分の考えを英語で書く。	平均点 1.9
2	(1)	ア	2	ライティング	英文の意味が通るように，語句を並べかえる。	65.9
		イ	2			22.5
		ウ	2			47.7
	(2)		2		英文の意味が通るように，適切な語を選ぶ。	49.9
	(3)	1	3		下線部の内容を英文で書く。	平均点 1.3
		2	3			平均点 1.1
3	(1)	A	3	リーディング	対話を読み，対話が成立するように空欄に入る最も適切な英文を選ぶ。	53.5
		B	3			72.4
		C	3			70.1
	(2)		4		対話を読み，必要な情報や概要を選ぶ。	35.3

問題番号			配点		問題の内容	正答率(%)
4	(1)	ア	2	リーディング ライティング	発表の内容に合うように，英語の要約文の空欄に適切な英語を書く。	86.7
		イ	2			78.0
		ウ	2			80.7
	(2)	1	3		発表の内容についての英語の質問に英語で答える。	17.6
		2	3			36.4
		3	3			51.4
	(3)		6		20語以上の英語で，自分の考えを書く。	平均点 2.0
5	(1)	ア	3	リーディング	本文の内容と合うように，与えられた語句に続く適切な表現を選び，英文を完成させる。	55.0
		イ	3			60.9
		ウ	3			58.7
		エ	3			39.4
	(2)		4		下線部の内容を日本語で説明する。	平均点 1.2
	(3)	ア	3		本文の内容と合うように，英語の要約文の空欄に入る適切な語を選ぶ。	27.6
		イ	3			42.5
		ウ	3			48.9